

最後の噴火からわずか300年しか経っていない富士山は、放射状の浸食谷はあるものの、どこから見てもおよそ「富士山型」をしています。しかし火山活動が終って数十万年も経っている斜里だけの場合、山の形状が変わるほど浸食が進んでいて、見る場所によってさまざまな表情を見せます。私は道東を旅行すると、さまざまな場所から斜里岳の姿を探し求めます。この画の斜里岳も気に入っています。



下絵線描です



これが完成した絵です



1、空から描きます。雲を塗り残す感じで、空が乾かないうちに、雲の影をつけます。次に地面ですが、一応畑の放射線状に、茶色で一緒に塗っておきます。



4、背景の落葉松林には、やや濃い「イエロー・オーカー」(黄土色)を塗っておきます。畑の畝(うね)も少しずつ立体的にしていきます。



2、次に主題の斜里岳に薄く色をつけておきます。山頂付近の雪は、最後まで塗り残します。



5、全体のバランスを確認しながら、少しずつ色を重ねていきます。畑には作物のあと(枯れた茎)を描いておきました。



3、画面右側から光が当たっていると意識して描きます。建物も山の稜線も、左側に影がつくようになります。



6、最後に背後の林に、少し緑(常緑樹)と白樺の幹を追加して完成としました。